

平成15年度 東京工業大学 2次試験前期日程(数学問題)150分  
理・工・生命理工 数I・II・III・A・B・C 平成15年2月25日

問題 1 2 3 4

- 1 (1) 3次関数  $y = -x^3 + ax^2 + bx$  ( $a > 0$ ) のグラフを  $C$  とする. 原点を通る直線で,  $C$  とちょうど2点を共有するものを2本求めよ.
- (2) (1) で求めた直線のうち, 傾きの大きい方を  $l_1$ , 小さい方を  $l_2$  とする.  $C$  と  $l_1$  が囲む部分の面積を  $S_1$ ,  $C$  と  $l_2$  が囲む部分の面積を  $S_2$  とおく. この二つの面積の比  $S_1 : S_2$  を求めよ.
- 2 2辺の長さの比が  $1 : a$  ( $a > 1$ ) の長方形がある. この長方形から1本の線分によって切ることにより正方形を取り去る. 残った図形が正方形でなければ, 再び同じ要領で正方形を取り去り, 残りが正方形でない限りこの操作を続ける. 例えば,  $a = 3$ ,  $a = \frac{3}{2}$  の場合はどちらも2回でこの操作は終わる.
- (1) 3回でこの操作が終わるような  $a$  の値をすべて求めよ.
- (2)  $n$  回の操作で終わるような  $a$  の値の最大値と最小値を求めよ.
- 3  $\triangle ABC$  において, 辺  $AB$  の中点を  $M$ , 辺  $AC$  の中点を  $N$  とする. 辺  $AB$  を  $x : 1 - x$  ( $0 \leq x < 1$ ) の比に内分する点  $P$  と, 辺  $AC$  を  $y : 1 - y$  ( $0 \leq y < 1$ ) の比に内分する点  $Q$  をとり, 線分  $BQ$  と線分  $CP$  の交点を  $R$  とする. このとき,  $R$  が  $\triangle AMN$  に含まれるような  $(x, y)$  全体を  $xy$  平面に図示し, その面積を求めよ. (ただし, 辺  $AB$ , 辺  $AC$  を  $0 : 1$  の比に内分する点とは, ともに点  $A$  のこととする.)
- 4 関数  $f_n(x)$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) を次の漸化式により定める.

$$f_1(x) = x^2, \quad f_{n+1}(x) = f_n(x) + x^3 f_n^{(2)}(x)$$

ただし,  $f_n^{(k)}(x)$  は  $f_n(x)$  の第  $k$  次導関数を表す.

- (1)  $f_n(x)$  は  $(n+1)$  次多項式であることを示し,  $x^{n+1}$  の係数を求めよ.
- (2)  $f_n^{(1)}(0)$ ,  $f_n^{(2)}(0)$ ,  $f_n^{(3)}(0)$ ,  $f_n^{(4)}(0)$  を求めよ.

## 解答例

- 1 (1)  $f(x) = -x^3 + ax^2 + bx$  とおくと ( $a > 0$ )

$$f'(x) = -3x^2 + 2ax + b$$

$C: y = f(x)$  上の点  $(t, f(t))$  における接線は

$$y - f(t) = f'(t)(x - t)$$

これが原点  $O$  を通るから  $-f(t) + tf'(t) = 0$

$$-(-t^3 + at^2 + bt) + t(-3t^2 + 2at + b) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad t^2(2t - a) = 0$$

接点の  $x$  座標は  $x = 0, \frac{a}{2}$  接線の傾きは  $f'(0) = b, f'\left(\frac{a}{2}\right) = \frac{a^2}{4} + b$

よって、求める接線の方程式は  $y = bx, y = \left(\frac{a^2}{4} + b\right)x$

- (2)  $a > 0, f'\left(\frac{a}{2}\right) > f'(0)$  より  $l_1: y = \left(\frac{a^2}{4} + b\right)x, l_2: y = bx$

$C$  と  $l_2$  を連立すると  $-x^3 + ax^2 + bx = bx$

$$x^2(x - a) = 0 \quad \text{共有点の } x \text{ 座標は } x = 0, a$$

$$\begin{aligned} S_1 &= \int_0^{\frac{a}{2}} \left\{ \left(\frac{a^2}{4} + b\right)x - (-x^3 + ax^2 + bx) \right\} dx \\ &= \int_0^{\frac{a}{2}} x \left(\frac{a}{2} - x\right)^2 dx = \frac{1!2!}{4!} \left(\frac{a}{2} - 0\right)^4 = \frac{1}{12} \left(\frac{a}{2}\right)^4, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} S_2 &= \int_0^a \{(-x^3 + ax^2 + bx) - bx\} dx \\ &= \int_0^a x^2(a - x) dx = \frac{2!1!}{4!} (a - 0)^4 = \frac{1}{12} a^4 \end{aligned}$$

よって  $S_1 : S_2 = \left(\frac{a}{2}\right)^4 : a^4 = 1 : 16$

補足 次の公式<sup>1</sup>を利用している.

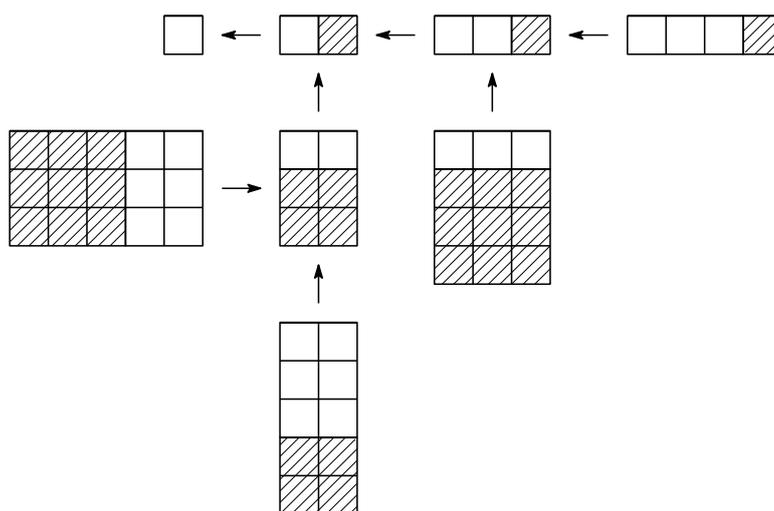
$$\int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha)^m (\beta - x)^n dx = \frac{m!n!}{(m+n+1)!} (\beta - \alpha)^{m+n+1}$$

<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_tech.2010\\_kouki.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_tech.2010_kouki.pdf) の 1 を参照.

- 2 (1) 下の図から、3回でこの操作が終わる長方形の辺の比は次の4通り.

$$4:1, \quad 3:4, \quad 2:5, \quad 5:3$$

よって、求める  $a$  の値は  $a = 4, \frac{4}{3}, \frac{5}{2}, \frac{5}{3}$



補足  $n$  回の操作で終わる個数は  $2^{n-1}$ . 上の矢印を逆に辿ると分かりやすい.

- (2)  $n$  回の操作で終わる  $a$  の値の集合を  $A_n$  とすると  $A_1 = \{2\}$

$$a \in A_n \implies a+1 \in A_{n+1}, \quad \frac{1}{a} + 1 \in A_{n+1}$$

$A_n$  の最大の要素を  $a_n$  とすると,  $a_1 = 2, a_n = a_{n-1} + 1$  より

$$a_n = 2 + 1(n-1) = n+1$$

$A_n$  の最小の要素を  $b_n$  とすると,  $b_n = 1 + \frac{1}{a_{n-1}}$

$$b_n = 1 + \frac{1}{n} = \frac{n+1}{n}$$

$n$  回の操作で終わるような  $a$  の値の最大値は  $n+1$ , 最小値は  $\frac{n+1}{n}$  ■

- 3  $0 < x < 1, 0 < y < 1$  のとき,  $\triangle ABQ$  と直線  $CP$  についてメネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AP}{PB} \cdot \frac{BR}{RQ} \cdot \frac{QC}{CA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{x}{1-x} \cdot \frac{BR}{RQ} \cdot \frac{1-y}{1} = 1$$

$BR : RQ = 1 - x : x(1 - y)$  であるから

$$\vec{AR} = \frac{x(1-y)\vec{AB} + (1-x)\vec{AQ}}{1-x+x(1-y)} = \frac{x(1-y)\vec{AB} + (1-x)y\vec{AC}}{1-xy} \quad (*)$$

(\*) は,  $xy = 0$  のときも成立するから, (\*) は  $0 \leq x < 1, 0 \leq y < 1$  について成立する.  $\vec{AB} = 2\vec{AM}, \vec{AC} = 2\vec{AN}$  であるから

$$\vec{AR} = \frac{2x(1-y)}{1-xy}\vec{AM} + \frac{2y(1-x)}{1-xy}\vec{AN}$$

$R$  が  $\triangle AMN$  に含まれるとき, 次を満たせばよい.

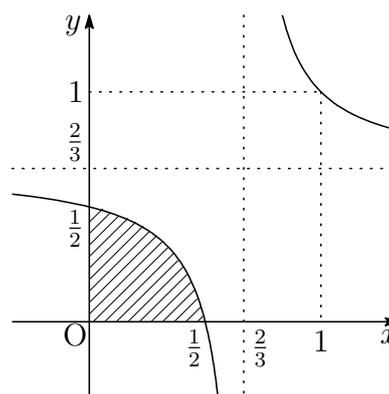
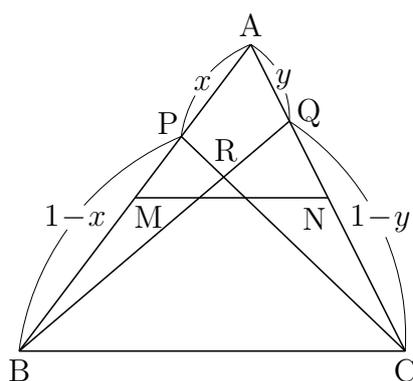
$$\frac{2x(1-y)}{1-xy} \geq 0, \quad \frac{2y(1-x)}{1-xy} \geq 0, \quad \frac{2x(1-y)}{1-xy} + \frac{2y(1-x)}{1-xy} \leq 1$$

$0 \leq x < 1, 0 \leq y < 1$  より, 上の第1式と第2式は満たすから, 第3式より

$$2x(1-y) + 2y(1-x) \leq 1-xy \quad \text{すなわち} \quad (3x-2)(3y-2) \geq 1$$

$(x, y)$  の満たす条件は  $0 \leq x < 1, 0 \leq y < 1, (3x-2)(3y-2) \geq 1$

よって, その満たす領域は, 右下の図の斜線部分で境界線を含む.



$$\text{その面積は} \int_0^{\frac{1}{2}} \left( \frac{2}{3} + \frac{1}{9x-6} \right) dx = \left[ \frac{2}{3}x + \frac{1}{9} \log |9x-6| \right]_0^{\frac{1}{2}} = \frac{1}{3} - \frac{2}{9} \log 2$$

■

4 (1) 「 $f_n(x)$  は  $(n+1)$  次多項式である」を (A) とする.

[1]  $n=1$  のとき,  $f_1(x) = x^2$  より, (A) が成立する.

[2]  $n=k$  のとき, (A) が成立すると仮定すると,  $f_k^{(2)}(x)$  の次数は

$$(k+1) - 2 = k - 1$$

$$x^3 f_k^{(2)} \text{ の次数は } (k-1) + 3 = k + 2$$

$f_k(x) + x^3 f_k^{(2)}(x)$  は,  $(k+1)$  次式と  $(k+2)$  次式の和であるから

$$f_{k+1}(x) = f_k(x) + x^3 f_k^{(2)}(x)$$

は  $(k+2)$  次式で,  $n=k+1$  のときも (A) は成立する.

[1], [2] より, すべての自然数  $n$  について, (A) は成立する.

$f_n(x)$  の  $n+1$  次項の係数を  $A_n$  とすると, 漸化式より

$$\begin{cases} A_1 x^2 = x^2 \\ A_{n+1} x^{n+2} = x^3 (A_n x^{n+1})^{(2)} \end{cases} \quad \text{ゆえに } (*) \begin{cases} A_1 = 1 \\ A_{n+1} = (n+1)nA_n \end{cases}$$

$$n > 1 \text{ のとき, } (*) \text{ より } \prod_{k=1}^{n-1} \frac{A_{k+1}}{A_k} = \prod_{k=1}^{n-1} k(k+1)$$

$$\frac{A_n}{A_1} = \prod_{k=1}^{n-1} k \prod_{k=1}^{n-1} (k+1) = (n-1)!n!$$

$$A_n = A_1(n-1)!n! = (n-1)!n!$$

上の結果は,  $n=1$  のときも成立するから, 求める  $x^{n+1}$  の係数は

$$(n-1)!n!$$

(2) 漸化式より,  $f_n(x)$  の最低次の項は  $x^2$  であるから

$$f_n(x) = x^2 + a_n x^3 + b_n x^4 + \dots$$

とおくと, 与えられた漸化式  $f_{n+1}(x) = f_n(x) + x^3 f_n^{(2)}(x)$  より

$$\begin{aligned} x^2 + a_{n+1} x^3 + b_{n+1} x^4 + \dots &= x^2 + a_n x^3 + b_n x^4 + \dots \\ &\quad + x^3 (x^2 + a_n x^3 + b_n x^4 + \dots)^{(2)} \\ &= x^2 + (a_n + 2)x^3 + (b_n + 6a_n)x^4 + \dots \end{aligned}$$

同じ次数の項の係数を比較すると

$$a_{n+1} = a_n + 2, \quad b_{n+1} = b_n + 6a_n \quad (**)$$

(\*\*) の第 1 式および  $a_1 = 0$  から,  $\{a_n\}$  は初項 0, 公差 2 の等差数列.

$$a_n = 0 + 2(n - 1) = 2(n - 1)$$

これと (\*\*) の第 2 式から  $b_{n+1} - b_n = 6 \cdot 2(n - 1)$

$$n > 1 \text{ のとき } \sum_{k=1}^{n-1} (b_{k+1} - b_k) = 6 \sum_{k=1}^{n-1} 2(k - 1)$$

$$b_n - b_1 = 6 \sum_{k=1}^{n-1} \{k(k - 1) - (k - 1)(k - 2)\}$$

$b_1 = 0$  であるから  $b_n = 6(n - 1)(n - 2)$

上式は,  $n = 1$  のときも成立する. 以上の結果から

$$f_n(x) = x^2 + 2(n - 1)x^3 + 6(n - 1)(n - 2)x^4 + \dots$$

したがって

$$f_n^{(1)}(0) = \mathbf{0},$$

$$f_n^{(2)}(0) = (x^2)^{(2)} = \mathbf{2},$$

$$f_n^{(3)}(0) = \{2(n - 1)x^3\}^{(3)} = \mathbf{12(n - 1)},$$

$$f_n^{(4)}(0) = \{6n(n - 1)x^4\}^{(4)} = \mathbf{144(n - 1)(n - 2)}$$

